

2015. 6. 26

プレスリリース

「内外の化繊工業の動向」

2015年 第1四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その「概要」をお届けします。
ご高覧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本化学繊維協会

(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

概 要 (2015年第1四半期)

2015年1-3月のわが国の景気は、消費が3四半期連続、設備投資および住宅投資が4四半期ぶりにそれぞれ増加し、緩やかながら回復基調を辿った。

このような中、化繊景況は紙おむつ用やエアバッグ用などが堅調だったが、婦人服をはじめとした国内向けの衣料用や高水準の輸入が続く自動車タイヤ用などが低調なため、化繊生産は24.0万ト、前年比0.6%の微減となった。

国 内

- 1) 衣料用途は、国内向けが盛り上がり欠けた。円安の定着で製品輸入が苦戦し、一方輸出ビジネスは一部の素材は低調だったが、テキスタイルは順調に推移した。ユニフォーム・ワーキング用は堅調、パンストはプレーンタイプが健闘したが柄物は低調。保温肌着用は飽和感が台頭して伸び悩んだ。ブラックフォーマルは主力の百貨店向けが低調だったが、ロードサイドショップ向けは健闘した。インテリア用途は、昨年への駆け込み需要の反動減が続く、カーテン・カーペット用が苦戦した。衛材・生活資材用途は、紙おむつなどの衛材用が製品輸出の増加を背景に好調に推移し、中国で需要拡大が続くフェイスマスク用が好調であった。産業資材用途は、エアバッグ用が好調を持続した。一方、タイヤコード用は織物および強力糸の高水準の輸入が続く、ポリエステル製では海外調達品が大半を占めた。カーシートは自動車生産の前年比減が続く苦戦した。土木・建築用も公共工事の一巡や住宅着工件数の前年比減が響き予想を下回った。
- 2) 生産指数は、繊維工業全体で前年比（以下同じ）1.7%減、化繊0.9%減、紡績3.7%減。在庫指数（期末）は、繊維工業全体が7.9%増、化繊10.8%増、紡績14.3%減。（2010年=100、生産、在庫とも指数ベースでの比較）
- 3) 繊維品輸出は、ドルベースで19.1億ドル・前年比（以下同じ）5.5%減、一方円ベースでは2,272億円・9.7%増。形態別（ドルベース）では、繊維原料3.9億ドル・6.2%増、糸類2.7億ドル・7.5%減、織物類5.6億ドル・4.8%減、二次製品他7.0億ドル・4.8%減。仕向地別（ドルベース）では、全体の29.3%を占める中国が10.7%減の5.6億ドル、香港（13.2%減）、韓国（1.2%減）、台湾（13.2%減）、アセアン地域はベトナム（0.1%増）、タイ（0.2%減）、インドネシア（12.4%減）・マレーシア（14.0%減）となり、それ以外では米州（8.6%増）、西アジア（4.7%増）、欧州（8.7%減）であった。
- 4) 繊維品輸入は、ドルベースで91.2億ドル・前年比（以下同じ）6.6%減、一方円ベースでは1兆855億円・8.0%増。形態別（ドルベース）では、繊維原料1.6億ドル・5.1%減、糸類3.2億ドル・5.4%減、織物3.4億ドル・5.1%減、二次製品他83.1億ドル・6.7%減。仕出地別では、全体の62.8%を占める中国が10.5%減の57.3億ドル、韓国（16.7%減）、台湾（3.6%減）、アセアン地域は、ベトナム（12.3%増）、インドネシア（5.9%

増)、タイ (1.6%減)、マレーシア (5.4%減)、それ以外では、イタリア (15.5%減)、米国 (2.8%減) となった。

繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	2013. 1-3	2014. 1-3	2015. 1-3	2014年比 (%)	2013年比 (%)
輸出	千ドル	2,068,196	2,017,616	1,906,838	-5.5	-7.8
計	百万円	191,611	207,145	227,185	9.7	18.6
繊維原料	千ドル	407,616	412,090	386,419	-6.2	-5.2
糸類	〃	302,950	289,070	267,297	-7.5	-11.8
織物類	〃	630,977	584,631	556,412	-4.8	-11.8
二次製品他	〃	726,652	731,824	696,710	-4.8	-4.1
輸入	千ドル	9,696,591	9,766,527	9,124,667	-6.6	-5.9
計	百万円	894,746	1,004,974	1,085,473	8.0	21.3
繊維原料	千ドル	169,899	166,681	158,186	-5.1	-6.9
糸類	〃	313,345	342,727	324,118	-5.4	3.4
織物類	〃	333,076	354,133	336,232	-5.1	0.9
二次製品他	〃	8,880,271	8,902,986	8,306,131	-6.7	-6.5
(うち衣類)	〃	(7,571,915)	(7,466,652)	(6,989,369)	-6.4	-7.7
輸出レート	円/ドル	92.6	102.7	119.1	16.0	28.6
輸入レート	円/ドル	92.3	102.9	119.0	15.6	28.9

(出所) 財務省

- 5) 化繊生産は 23 万 9,549 トン・前年比 (以下同じ) 0.6%減となり、うちセルロース繊維 4 万 5,688 トン・2.6%増、合繊 19 万 3,861 トン・1.4%減となった。期末 (3 月末) 在庫は 9 万 462 トン・12.0%増、うちセルロース繊維 1 万 8,656 トン・12.5%増、合繊 7 万 1,806 トン・11.9%増であった。

化繊輸出 (繊維原料～二次製品) は 15.2 万トン・前年比 (以下同じ) 0.3%減。うち、繊維原料 7.7 万トン・3.5%減、糸類 2.9 万トン・0.3%減、織物類 (面積ベース) 1.41 億㎡・4.0%増、二次製品 2.4 万トン・6.6%増となった。品種別では、レーヨン S 17.6%増、ナイロン F 0.8%減、ポリエステル F 19.2%減、ポリエステル S 15.5%減、アクリル S 5.1%増、織物類 (面積ベース) はナイロン F 織物 3.0%増、ポリエステル F 織物 2.2%増、ポリエステル S 織物 6.4%増であった。

化繊輸入 (繊維原料～二次製品) は 34.0 万トン・前年比 0.8%減。うち、繊維原料 1.6 万トン・1.7%減、糸類 5.1 万トン・2.9%減、織物類 (面積ベース) は 1.67 億㎡・5.4%増、二次製品 23.7 万トン・3.3%減、うち衣類 11.3 万トン・2.1%減となった。品種別では、レーヨン S 14.4%減、ナイロン F は 15.4%増、ポリエステル F 7.3%増、ポリエステル S 3.3%増、ポリエステル紡績糸 2.6%減、織物類 (面積ベース) はポリエステル F 織物 4.8%増、ポリエステル S 織物 22.1%増であった。

化学繊維の主要指標

項目	単位	2013.1-3	2014.1-3	2015.1-3	2014年比(%)	2013年比(%)
化繊生産	千トン	239.2	241.1	239.5	-0.6	0.2
セルロース	〃	42.0	44.5	45.7	2.6	8.7
合 繊	〃	197.2	196.5	193.9	-1.4	-1.7
化繊在庫	〃	83.9	80.7	90.5	12.0	7.8
セルロース	〃	15.9	16.6	18.7	12.5	17.6
合 繊	〃	68.1	64.2	71.8	11.9	5.5
化繊輸出	千トン	155.9	151.9	151.5	-0.3	-2.9
	100万ドル	1,335.4	1,294.8	1,237.4	-4.4	-7.3
	億円	1,237.3	1,329.3	1,474.4	10.9	19.2
繊維原料	千トン	83.6	79.4	76.6	-3.5	-8.3
糸 類	〃	29.7	28.8	28.7	-0.3	-3.3
織物類	百万㎡	136.5	135.5	140.8	4.0	3.1
二次製品	千トン	20.7	22.1	23.5	6.6	13.4
化繊輸入	千トン	312.1	343.2	340.3	-0.8	9.1
	100万ドル	4,129.5	4,192.8	3,917.8	-6.6	-5.1
	億円	3,807.1	4,315.3	4,659.9	8.0	22.4
繊維原料	千トン	13.5	15.8	15.5	-1.7	15.5
糸 類	〃	45.6	52.7	51.1	-2.9	12.1
織物類	百万㎡	157.1	158.8	167.4	5.4	6.5
二次製品他	千トン	226.4	245.0	236.9	-3.3	4.7
(うち衣類)	〃	(112.8)	(115.7)	(113.3)	-2.1	0.4

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 1. 在庫は生産者在庫で各期末 2. 化繊輸出入の計には化繊くずを含む

6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

<ポリエステルF>

2015年第1四半期のポリエステルフィラメントの生産は3万2,468トン・前年同期比2.9%の減、3月末在庫は1万1,348トン・前年同月比3.6%の増。

衣料用:ブラックフォーマルは主力の百貨店・専門店向けが盛り上がり欠けたが、ロードサイドショップ向けは堅調を維持。中東向け民族衣装「アバヤ」は円安定着で中継地のドバイ向けを中心に順調に推移した。高額品が多い「ヨガ」向けのニットは国内・輸出ともに好調。学校体育用は上向きに転じ、機能素材へのニーズが高まっている。

非衣料:タイヤコード用は織物および強力糸輸入の高水準が続く、カーシートは自動車生産台数が3月迄で9ヵ月連続前年比減となった影響で低調。カーテンは新規住宅着工件数が2月迄で12ヵ月連続前年比減と、昨年の消費税上げ前の駆け込み需要の反動が大きく苦戦した。土木・建築関係も公共投資の一巡や住宅着工件数の減少などが重なり、荷動きが予想を下回った。漁網は海外向け(間接輸出)が堅調だ

が、国内向けは不振が続いた。除染処理用のフレコンは耐用年数の経過で更新需要が始め荷動きは活発になった。

フィラメント輸出は 3,825 トン・前年同期比 19.2%減、フィラメント輸入 3万 2,550 トン・7.3%増。

<ポリエステルS>

2015年第1四半期のポリエステルステーブルの生産は 3万 6,159 トン・前年同期比 5.0%の減、3月末在庫は 1万 7,983 トン・前年同月比 15.0%の増。

紡績用：主力のユニフォーム・ワーキング向けは堅調、生産スペースもタイトな状況が続き建築関係などを中心に今後も安定した需要が見込めそう。

製綿用：寝具品の店頭販売は駆け込み需要の反動や3月の気温が高めだったことに加え、就職・進学需要も盛り上がり欠けたため低調だった。

不織布用：衛材は高価格帯の中国向け紙おむつ・生理用製品の輸出増加が加速（1-3月前年比金額ベースで2.4倍）する中、ステーブルの出荷は堅調に推移した。ワイパーなど生活資材向けは円安定着で輸入原反のコストが上昇し、国産品への引き合いが回復してきた。車両資材用は国内自動車生産が前年を下回る状況が続くなど不安要因があるものの、ステーブルの出荷は健闘した。

ステーブル輸出は 7,033 トン・前年同期比 15.5%の減、ステーブル輸入 8,856 トン・3.3%の増。

<ナイロンF>

2015年第1四半期のナイロンフィラメントの生産は 2万 3,299 トン・前年同期比 5.1%の減、3月末在庫は 1万 960 トン・前年同月比 20.0%の増。

衣料用：パンストは大手靴下メーカーが販促に力を入れるプレーン物が堅調だったが、柄物が低調、タイツは「黒」中心の動きで、訪日中国人のまとめ買いが話題になった。ウインター・アウトドア用などの高密度織物の輸出は円安定着で米国向けが好調だったが、欧州および韓国向けが盛り上がり欠けた。

非衣料用：タイヤコード用は織物・強力糸の高水準の輸入が続くが、円安定着で海外調達を一部で見直す動きが出てきた。航空機タイヤ用は好調が続くものの、世界的な資源価格の急落を背景に鉱石運搬車の超大型タイヤ向けが伸び悩んだ。エアバッグ用はタイト感が強い中、基布工場が立地するアセアン諸国へ輸出が順調。ホーサー（船舶係留用ロープ）は 2014年を底に上向いてきた。タイルカーペット用は駆け込み需要の反動減が顕在化してコントラクト向けを中心に苦戦した。

フィラメント輸出は 9,887 トン・前年同期比 0.8%減、フィラメント輸入 7,971 トン・15.4%増。

<アクリルS>

2015年第1四半期のアクリルステーブルの生産は 3万 445 トン・前年同期比 5.1%の

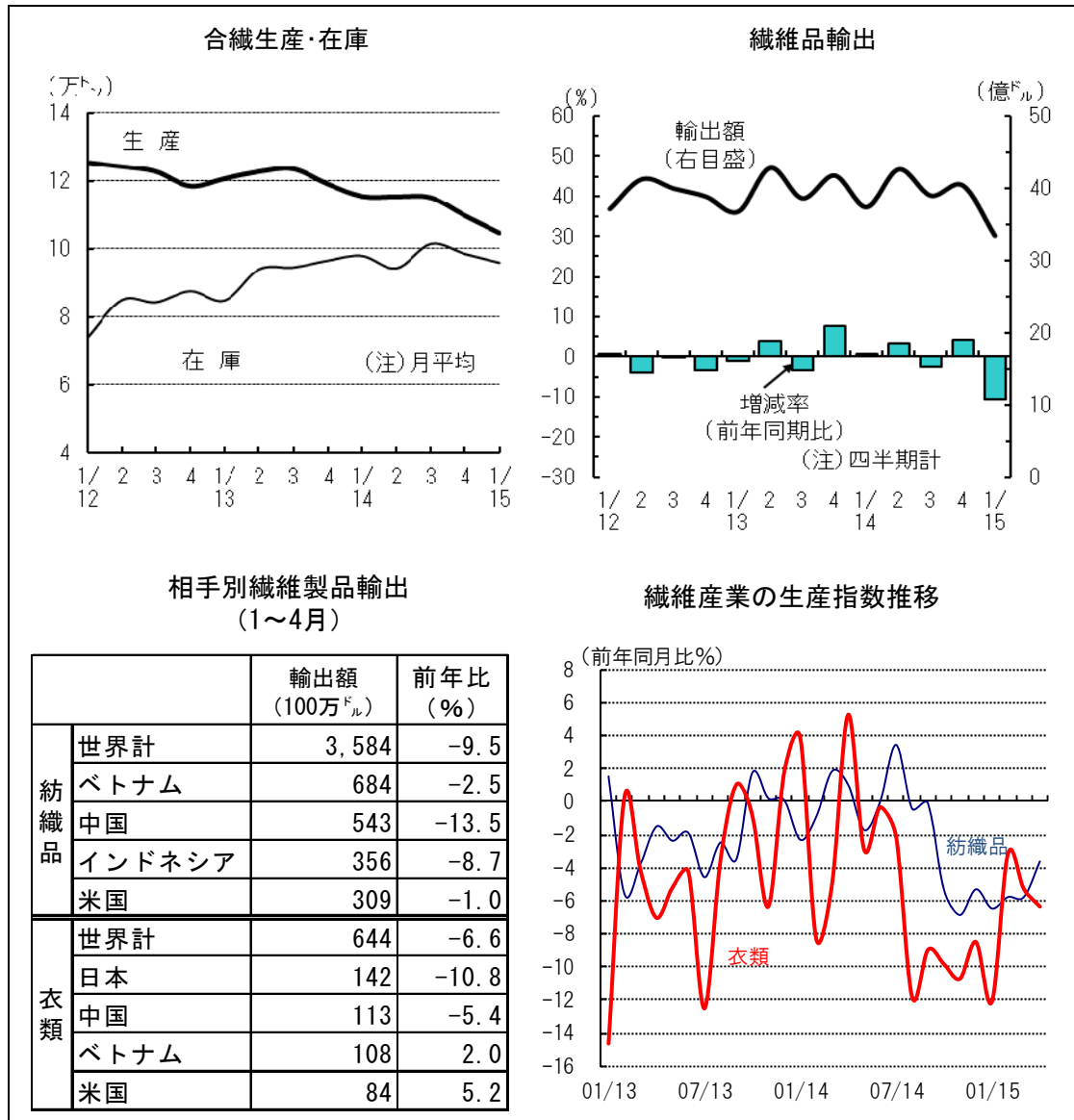
減、3月末の在庫は1万7ト、前年同月比14.1%増。

衣料用：保温肌着は飽和感が台頭する中、2014年シーズンの店頭販売では大手SPAは健闘した模様であるが、GMS（総合スーパー）のPB商品の落ち込みが大きい。セーターはスクール関係などQR対応が必要なものに限定されてきた。

建寝装用：毛布はステープルの出荷が激減したが、円安定着で国産アクリル毛布に出番が回るのを期待。カーペットは一部の水回り品などに限定されている。

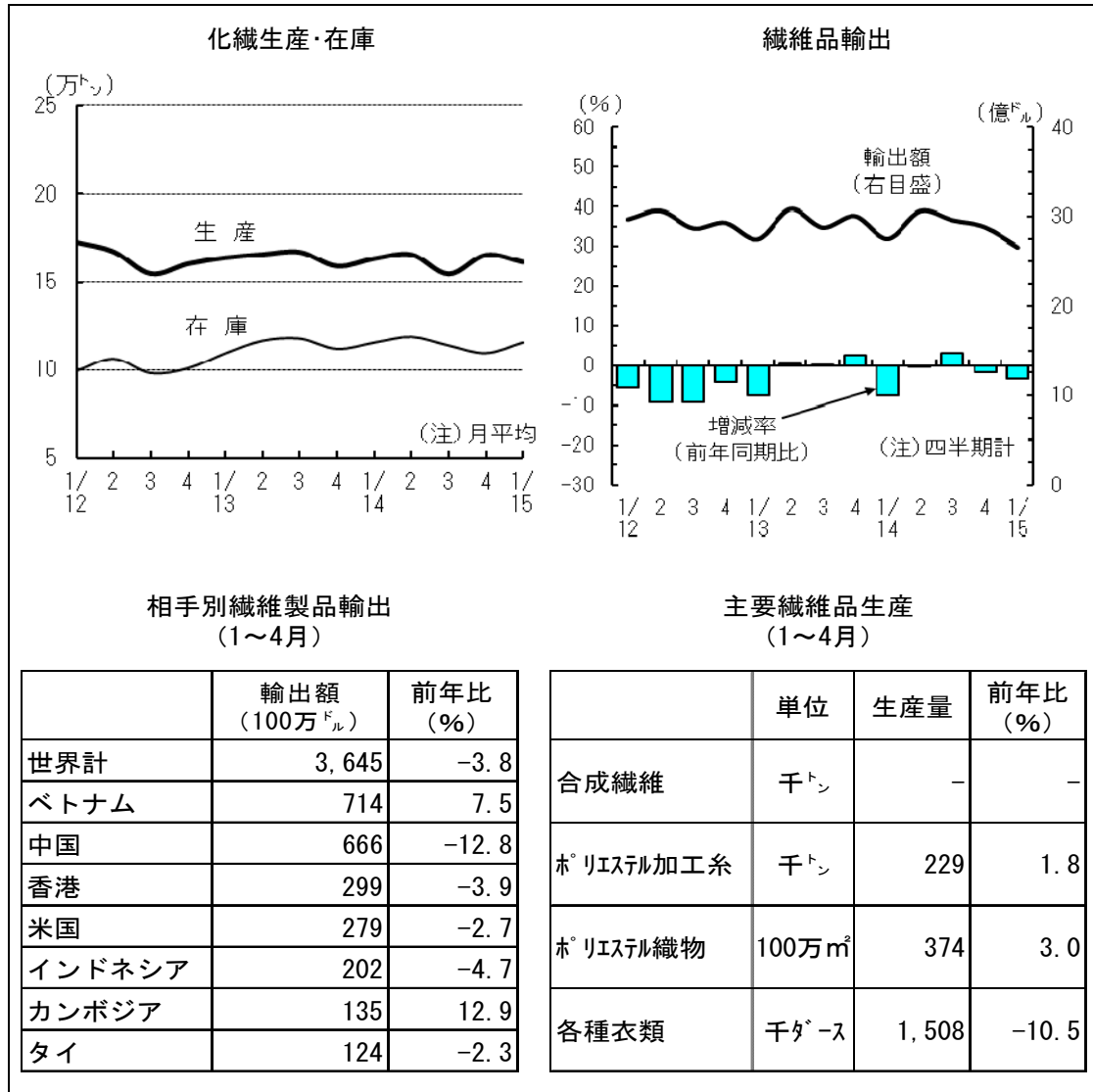
ステープル輸出：最大仕向地の中国について、主力のフェイクファー用は純輸出（ステープルの売りっ放し）が多いため、円安で好調が予想されたが、流通在庫の増加、アクリロニトリルの先安観、欧州向け再輸出のスタート遅れなどで盛り上がりに欠けた。また、セーター用も「重ね着」のトレンドが世界的に進行し、再輸出・内需ともに「セーター離れ」が続き苦戦した。インドネシアは2,413ト、17.5%減、主力のセーター用梳毛糸が低調なため、昨年来月間1千トを下回ることが多い。

7) 韓国



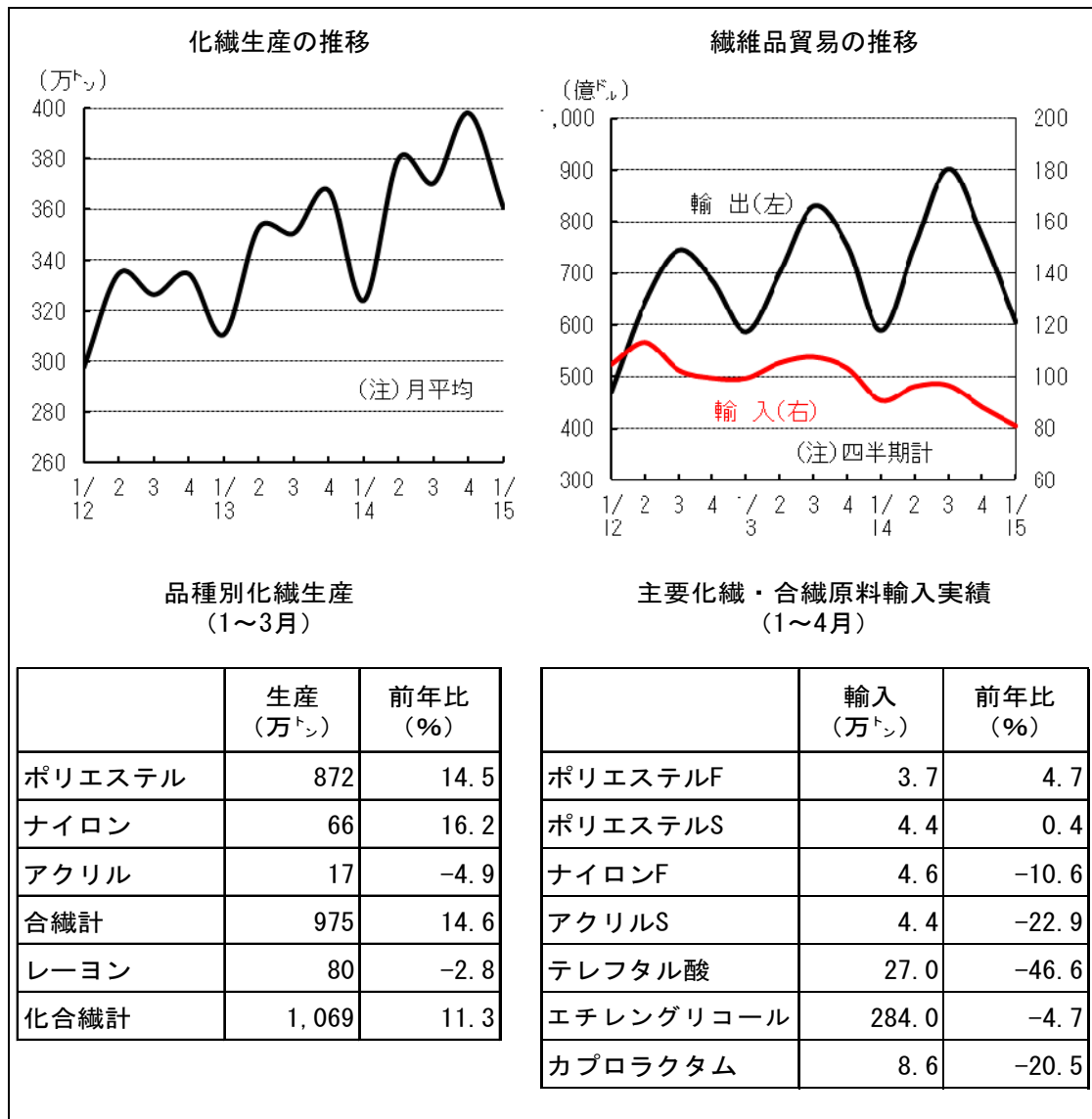
- ◆化繊生産は減産、繊維品輸出も2桁減となるなど、繊維業況は全般的に低調であった。
- ◆第1四半期の合織生産は前年同期比9%減の31万ト(1-2月実績から推定)と5期連続で前年実績割れとなった。
- ◆第1四半期の繊維品輸出は10.8%減の33.4億ドルとなった。1~4月の繊維製品輸出を相手別にみると、紡織品はベトナム、中国、インドネシアなど主力市場が軒並み前年実績割れとなった。衣類は主力の日本が2桁減となった。第1四半期の繊維品輸入は3.5%増の34.8億ドルと昨年来の入超が続いている。
- ◆直近(2015年4月)の繊維品の生産指数をみると、紡織産業は3.6%減、衣類産業は6.4%減、ともに2014年年央以降、前年実績を下回っている。

8) 台 湾



- ◆化繊生産、繊維品輸出ともに減少した。
- ◆第1四半期の化繊生産は前年同期比1.2%減の48.4万トンとなった。主要合繊4品種は、ナイロンFが7.9%減、ポリエステルFが0.5%減となったが、同Sは0.7%増、アクリルSは3.3%増となった。
- ◆第1四半期の繊維品輸出は3.3%減の26.6億ドルとなった。1~4月の繊維品輸出を上位相手別にみると、中国が2桁減と減少したのに対して、ベトナム向けが続伸し、初めて最大の輸出先となった。繊維品輸入は、6.4%増の8.7億ドルとなった。
- ◆1~4月の主要繊維品の生産は、ポリエステル加工糸は1.8%増、ポリエステル織物は3.0%増と増加したが、衣類は10.5%減となった。

9) 中 国



- ◆ 繊維生産は引続き拡大傾向にあるが、繊維品輸出は鈍化した。
- ◆ 第1四半期の化繊生産は前年同期比 11.3%増の 1,069 万トンとなった。主力のポリエステルは 14.5%増の 872 万トンとなった。なお、同期間の紡績糸生産は 2.1%増、織物生産は 3.7%増とこれまでの伸びから大幅に鈍化している。
- ◆ 第1四半期の繊維品輸出は前年同期比 2.7%増の 605 億ドルとなった。一方、輸入は 10.7%減の 81 億ドルとなった。
- ◆ 1~4月の合繊原料輸入は、テレフタル酸、カプロラクタムが国内生産の増加もあってそれぞれ前年同期比 46.6%減、20.5%減の大幅減となった。エチレングリコールは 4.7%減となった。

相手別繊維製品輸出 (1~4月)			繊維業界の主要指標 (1~4月)			
	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)		単位	指標	前年比 (%)
世界計	797	-2.7	企業数	万社	3.8	-
アジア計	367	-3.9	赤字企業数	万社	0.6	2.9
日本	70	-11.4	主要業務収入	億元	20,004	5.4
香港	40	-14.9	うち化繊産業	億元	2,183	2.1
韓国	26	10.8	利潤総額	億元	984	10.1
アセアン	110	2.9	うち化繊産業	億元	84	54.4
EU	140	-7.4	繊維産業実際投資	億元	2,693	15.4
米国	124	6.5	うち化繊産業	億元	298	8.1

社会小売財消費総額 (1~5月)				繊維関連物消費者物価指数 (1~5月)	
	単位	数値	前年比 (%)		前年同期比 (%)
商品売上総額	億元	117,297	10.4	消費者価格指数・全製品	1.3
うち繊維品等	億元	5,305	11.0	消費者価格指数・衣類等	2.9

- ◆1~4月の相手別の繊維製品輸出は、全体で2.7%減、アジア向けは3.9%減となり、日本向け、香港向けは2桁減となった。また最大の仕向地であるEU向けは7.4%減となった。その一方、米国向けは6.5%増と堅調が続いている。これまで大幅増のアセアン向けは2.9%増に鈍化している。
- ◆1~4月の繊維産業の主要指標は、主要業務収入は5.4%増であったが、利潤総額は10.1%増と好調であった。繊維産業の投資は15.4%増と2桁の伸びが続いている。
- ◆衣料用内需は引続き堅調に推移した。1~4月の繊維品に関する社会小売消費総額は前年同期比11.0%増となった。衣類等の消費者物価指数は前年同期比2.9%上昇した。

合繊4品種需要実績(2015年1～3月)

※国内需要の衣料・非衣料用の対前期比および対前年同期比の欄について、衣料・非衣料の比率見直しにより空欄とします。

I. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2015年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	23,716		
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	40,028		
	計	63,744 (32,553)	100.3 (102.8)	99.7 (107.4)
輸出 (原糸、加工糸)		1,730	90.4	89.5
需要計		65,474	100.0	99.4
在庫		11,348	98.5	103.6

(注)国内需要の()内数値は輸入量

II. ポリエステルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2015年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む)	4,957		
	非紡績用 (加工品輸出用含む)	33,369		
	計 (輸入)	38,327 (8,856)	100.5 (96.9)	103.6 (103.3)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		4,452	136.9	71.2
需要計		42,779	103.4	98.9
在庫		18,714	100.0	119.6

(注)国内需要の()内数値は輸入量

III. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2015年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	6,068		
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	17,454		
	計	23,522 (7,970)	98.1 (107.6)	96.3 (115.4)
輸出 (原糸、加工糸)		6,796	99.1	96.2
需要計		30,318	98.4	96.3
在庫		10,960	109.9	120.2

(注)国内需要の()内数値は輸入量

IV. アクリルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2015年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	7,472		
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	1,903		
	計	9,375 (161)	175.5 (120.1)	116.4 (83.4)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		23,488	85.8	94.3
需要計		32,863	100.4	99.7
在庫		10,007	80.9	114.1

(注)国内需要の()内数値は輸入量